



森林整備に向けて意見を話す出席者たち  
＝浜松市中区のはましん相談プラザで

# 森林保全、活用で意見

## 中区で サミット 企業の社会的責任など

森林の保全や活用を  
考えるシンポジウム

「第六回どんぐりサミ  
ット2013」（NP

プレンティアの森、  
中日新聞東海本社後

援）が十六日、浜松市  
中区のはましん相談プ

ラザで開かれた。NP  
O代表や財界、行政な

どの代表五人が「どう  
活かすヒト社会の責

任」をテーマに意見を  
交わした。

森林の大切さを見直  
し、再生に向けてCSR

た。

集局次長が司会を務め

た。

た。

た。

た。

た。

R（企業の社会的責  
任）や市民への啓発を

促すのが狙い。浜松  
商工会議所の御室健一

郎会頭（六）、静岡文化  
芸術大文化政策学部

の下沢嶽教授（五）、県  
環境ふれあい課の志

村弘一課長（五）、県緑  
化推進協会の高本靖

専務理事（六）、NPO  
プレンティアの森の水

野博代表（六）が討論  
し、永井昌己本紙編

集局次長が司会を務め

た。

た。

た。

た。

た。

た。

た。

置いた事業への転換を  
訴えた。下沢教授は  
「価値の再発見ができ  
れば、山間地と都市部  
をつなぎ合わせていく  
こともできる」と提案  
した。

県西部では企業や市  
民が連携して森づくり  
活動が進んでいる。志  
村課長は「豊かな森を  
将来に引き継ぐために  
も中、東部に広めた  
い」、高本専務理事は  
「持続可能な森林経営  
を社会全体でやってい  
くことが大事」と述べ  
た。

（詳細は三十日付の特  
集面に掲載します）